

皮膚科 研修で経験が望ましい項目 (minimum requirement)

	回診・手術・検討会	日付	回数
	回診		
A	教授回診で症例プレゼンテーションをした		
C	教授回診で症例プレゼンテーションおよびディスカッションをした。		
	手術		
A	皮膚生検や皮膚切除術の術前説明に立ち会った		
C	皮膚生検や皮膚切除術の術前説明を指導医とともに実施した。		
A	手術時に消毒・ドレーピングを行った		
C	手術時に消毒・ドレーピング・局所麻酔を行った		
C	手術時に皮膚切開を行った。		
A	手術時に真皮縫合・表皮縫合を行った		
A	手術後の病理検体の処理を手伝った		
A	手術後の注意事項について患者に説明を行なった		
A	手術後の注意事項について患者に説明を行なった		
B	手術後の抜糸を行い、抜糸後の注意事項を患者に説明した。		
	検討会		
A	組織検討会で皮膚病理組織診断の基礎を学んだ。		
B	組織検討会で担当患者の皮膚病理組織診断のプレゼンテーションをした。		
	外来		
A	新患患者の予診をとった		
A	プライバシーの保護とインフォームドコンセントの重要性を理解し、患者・家族に説明を行った上で診察を行った		
A	初診医に予診をとった新患患者のプレゼンテーションを行った		
C	初診医に予診をとった新患患者のプレゼンテーションを行い、自分の臨床診断とその理由を説明した。		
A	予診をとった患者の皮膚生検組織を確認し、所見を理解した		
A	薬疹患者の薬歴を聴取し、必要な検査を説明することが出来た		
C	重症薬疹患者の診察を行い、診断に必要な検査を理解した。		

A	带状疱疹の患者の診察を行った		
A	専門外来の見学をした		
C	自分の興味のある専門外来の見学を通して疾患の理解を深めた。		
A	ナローバンド UVB などの紫外線療法の見学をした		
C	指導医と一緒にナローバンド UVB などの紫外線療法を実施した		
A	胼胝や鶏眼の処置を見学した		
C	指導医と一緒に胼胝や鶏眼の処置を実施した		
A	凍結療法の見学をした		
C	指導医と一緒に凍結療法を実施した		
A	真菌検鏡を行い、結果を判定することが出来た		
A	ダーモスコピーの使用方法和代表的疾患の所見を理解した。		
C	ダーモスコピーにより代表的疾患を診断した		
A	簡単な創傷処置を指導医と一緒に実施した。		
C	適切な創傷処置を選択し、指導医と一緒に実施した。		
A	硝子圧法を行い、紅斑・紫斑の違いを理解した		
C	皮膚超音波検査を外来で見学し、所見を理解した。		
	病棟		
A	乾癬患者を受け持ち病態・治療法を理解した		
A	熱傷患者を受け持ち処置を行った		
A	水疱症（天疱瘡、類天疱瘡）患者を受け持ち病態・治療法を理解した		
A	アトピー性皮膚炎患者を受け持ち病態・治療法を理解した		
C	重症薬疹患者を受け持ち病態・治療法を理解した		
C	皮膚悪性腫瘍患者を受け持ち病態・治療法を理解した		
A	実際に軟膏処置を行い、適切な軟膏の選択について説明することが出来た		
A	受け持ち患者の診察を行い、今後の治療に関して上級医と討論をした		
C	患者説明に立ち会った		
A	受け持ち患者のカルテを記載した		
C	受け持ち患者のカルテおよび入院総括を記載した		
A	パッチテストの見学した		
C	パッチテストを実施した		

A	プリックテストの見学をした		
C	プリックテストを実施した		

- A 4 週間で経験することが望ましい
- B 8 週間で経験することが望ましい
- C 12 週間で経験することが望ましい